

## 研究等成果報告書

研究費の区分	<p style="text-align: center;">基盤研究費・学部等研究費・全学研究費</p> 種目：学部等研究費
研究課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化理解・コミュニケーションのための表象文化論的研究</li> <li>・学会発表旅費</li> </ul>
学部等・職・氏名	共通教育センター・准教授・熊本哲也
研究成果の概要	<p>・異文化理解論：この研究は、昨今の映像メディアの氾濫の中でもすると無批判的に映像を受容してしまうわれわれがいわば映像のリテラシーを獲得することで、異なる文化の対峙、融合、同化、分離というものを解決する糸口を見出そうとする研究であった。</p> <p>文化芸術の形態、あるいはメディアとして映画が出現してから100余年を経ているが、日本において映画・映像文化という表象形態はアカデミックな場においてあまり多く論じられてこなかった。映画・映像文化は20世紀を通じて、アーティスティック（技術的＝芸術的）な発展を遂げ、単なる娯楽ではなくひとつの文化になりえている。こうした文化を分析し講義する場として、大学という空間は極めてふさわしい機能をもっている。以上のような事情から、岩手県立大学の共通教育センターという国際的な視点で教育を実施する部局において映画文化を国際的視点で研究し、講義を通じて映像の批判的な見方について講じ、映像文化に関する啓蒙活動を行うことは意義がある。</p> <p>研究活動は映像資料および批評資料の収集から始めなければならない。必要な映像資料が必ずしも大学にストックされていないからである。したがって、本研究の目標の半分は歴史的、国際的な映像資料のライブラリーを構築することにあつた。あとの半分は、こうして収集された映像資料を駆使して学内では講義の中でなどで実践的に研究成果を報告することであつた。年間を通じて、できるだけ網羅的なライブラリーを構築すること、また、これを用いた講義、論文執筆をし、映像リテラシー分野の啓蒙を行ってゆくことが課題であつた。</p> <p>・学会発表旅費： 次の日程で学会発表を行い旅費の補助を受けた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 2008年6月21日～22日、18世紀学会（於大分大学）、発表題目： ルソーのオペラ論における〈関心〉と〈イリュージョン〉について</li> <li>2) 2008年11月29日～30日、日本フランス語フランス文学会東北支部大会（於福島大学）発表題目：ルソーと『百科全書』</li> </ol>

目標の達成状況	<p>映像資料および批評資料の収集という点については、この間 DVD、映画に係る研究所などを購入することで一部が達成されたが、今後も継続的に収集してゆくことが必要となっている。量的には、網羅的な映像ライブラリーと称するものには達してはいない。また、国際色豊かな人材の共通教育センターの人的資源の活用も不十分であった。講師を招いての講演会、上映会という企画もなかなか実現しなかった。こうした点を反省点として次年度に更に予算を申請してゆきたい。</p>
成果発表等	<p>映像の分析として、個人的なレベルではあるが論文一本の執筆がなされた。題名、「ロメールの『友達の恋人』における欲望の交錯とシンメトリー」、岩手県立大学共通教育センター 『リベラル・アーツ』 第3号掲載。</p>

注 学会発表論文等の成果発表資料を添付すること。(成果発表資料がない場合は、研究実施レポートを添付すること)